

意識変化をアンケートで測り、同世代型と世代ミックス型の議論で3つの論点を深める

開催概要

目的:①持続可能な雪対策の方向性、特に生活道路の除排雪の在り方について市民議論を行い、雪対策審議会や市民会議の基礎資料として活用。②多様な意見を引き出す議論のフレームの構築。

名称:札幌の冬の暮らしをみんなで考える市民ワークショップ

日時:2/28(土)13:00 – 17:30

場所:札幌市教育文化会館 研修室 305

対象:10代～70代の市民50名(参加 43名)

選出方法:住民基本台帳から3,000 人を無作為抽出し案内状を送付。応募者から属性バランスを考慮して決定。

進行:司会とファシリテーターを配置。

論点:3つの論点を設定。

①生活道路の雪対策について、どの方向性で進めていくのがよいか

②冬の生活道路の環境について、何を大切にしたいか

③行政と地域がどのように役割分担を行いながら進めるのがよいか

備考:謝礼5千円。事前資料を開催1週間前に届くように送付。

当日の流れ

受付・情報提供

- ・受付・T1アンケート
- ・オリエンテーション(5分)
- ・情報提供① (15分)
- ・T2アンケート (10分)
- ・ワークの進め方の説明(10分)

同世代ディスカッション & Q&A

- ・同世代で議論 (55分)
- ・グループ発表(20分)
- ・休憩・質問集約(10分)
- ・質疑応答(Q&A) (5分)

情報提供・多世代ディスカッション

- ・情報提供② (15分)
- ・多世代で議論 (65分)
- ・グループ発表(20分)

振り返り・アンケート

- ・休憩(5分)
- ・振り返り・T3アンケート (20分)
- ・まとめ(5分)

アンケート調査

・3回の調査で意識の変化を測定。

情報提供

・①は人口減少、財政状況、雪対策の現状と課題を、②は生活道路除排雪の現状と課題等をスライドで紹介。

同世代ディスカッション

「雪のある暮らしの将来イメージと大切にしたいこと」

・世代ごとに雪のある暮らしのプラスとマイナス面を共有。
・20～30年後の札幌の雪のある暮らしの中で、将来にわたって大切にしたいことを議論。

多世代ディスカッション

「みんなで考える冬の生活道路のこれから」

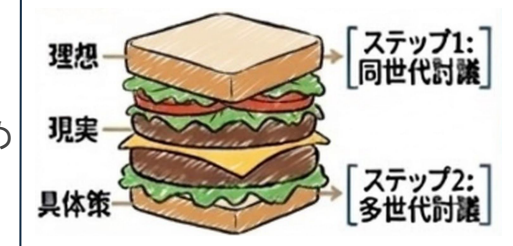
・生活道路の4つのシナリオのメリット・デメリットを出し合い、地域の生活道路を守るために、市民が協力できることを議論。
・これまでの議論を踏まえ、冬の生活道路のあるべき姿をまとめた。

「サンドイッチ構造」と「ハイブリッド対話」の採用

- ・サンドイッチ構造:参加者の自由な発想を尊重しつつ、正確な情報を提供し、現実と向き合ったうえで、制約の中で現実的な方策を考えるプログラムの構成
- ・ハイブリッド対話:同世代で議論し生活実態やニーズを掘り下げた後、多世代で異なる年代の価値観をすり合わせ、多角的な視点から課題を捉える対話の手法



(イメージ図)



参加者属性

冬期道路環境への満足度が低い方が多く参加

概要

10代～70代の市民43名が参加
(欠席:20代1名、30代2名、
40～70代各1名)

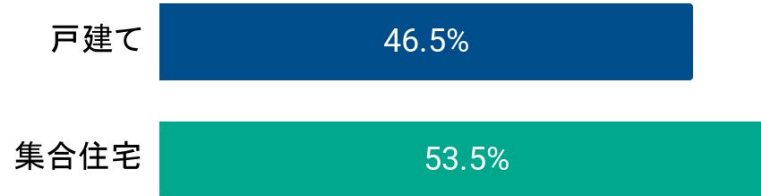
- 町内会に加入している方が8割弱
- 集合住宅にお住まいの方が約5割
- 冬の主な移動手段は、自家用車及び地下鉄が約3割
- 冬期道路環境に不満を持つ方が約5割
- 市政に意見を全く言ったことがない方が約6割
- 長く積雪寒冷地に住んでいる方が中心で、20年以上居住者が約7割

属性

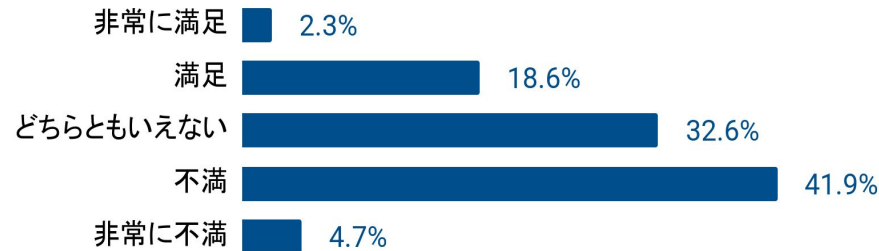
年代・性別(人)



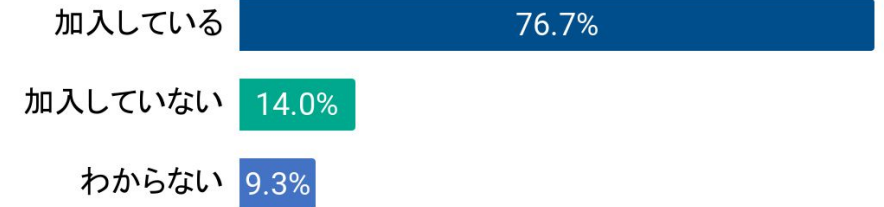
居住形態(n=43)



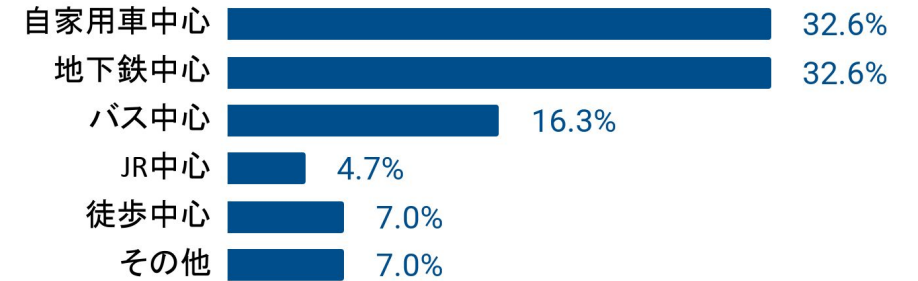
冬期道路環境への満足度(n=43)



町内会加入(n=43)



冬の主な移動手段(n=43)



市政に意見を言う頻度(n=43)



3つの論点の議論の結果

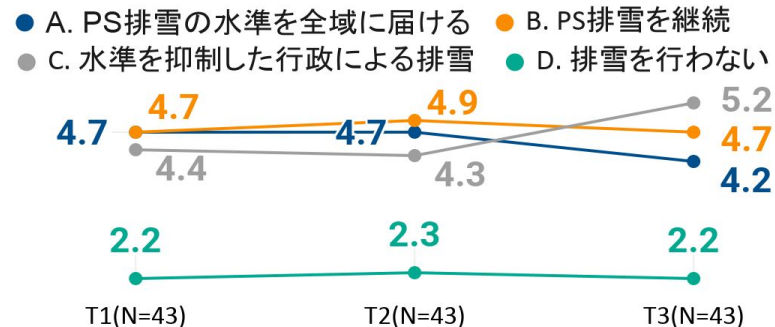
論点①生活道路の雪対策について、どの方向性で進めるのがよいか

設問

Q1.生活道路の雪対策について、どの方向性(シナリオ)で進めていくのがよいか伺います。
4つの方向性のメリット・デメリットを読んで、どの程度賛成しますか。
(それぞれ7段階で評価)

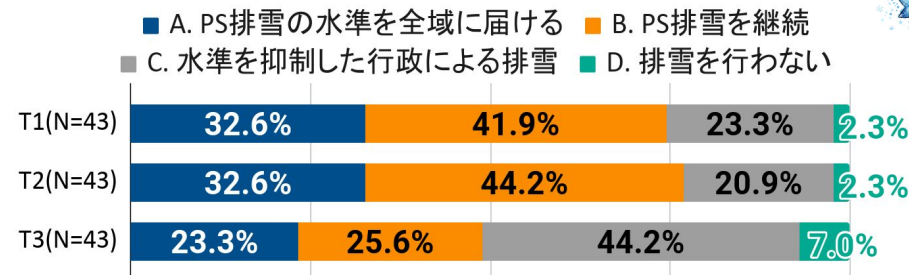
結果

シナリオ賛成度(7段階)



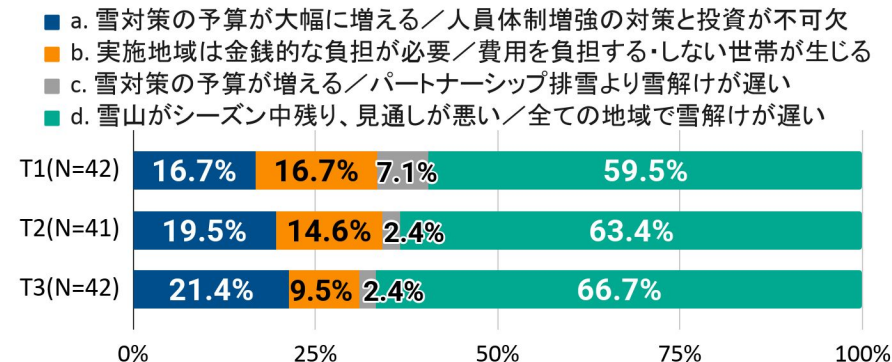
Q2.4つの方向性(A~D)のうち、最も支持するのはどれですか。
(1つだけ選択)

シナリオの支持(択一)



Q3.4つのシナリオに含まれるデメリットのうち、最も受け入れにくいものはどれですか。(1つだけ選択)

シナリオの最も受け入れにくいデメリット(択一)



議論を経て「水準を抑制した行政による排雪」が最多支持

- シナリオへの賛成度では、議論前はAとBが最も高かったが、議論後にはAの賛成度は低下した。一方で、Cへの賛成度が議論を通じて増加し、最終的には全シナリオで最も高い賛成度となった。
- シナリオへの支持では、議論前はBが約4割で最大の支持を集めていたが、議論後には大きく減少した。対照的に、Cの支持は議論後には4割半ばへと倍増し、最終的に最も多く支持された。
- 開始前と情報提供後と比較すると、回答結果にほとんど差が見られなかった。

最も受け入れにくいのは「見通しの悪さ」

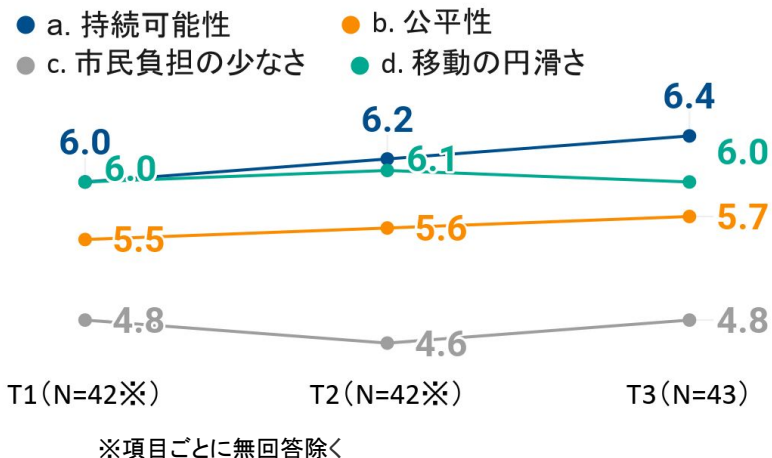
- 最も受け入れにくいデメリットでは、シナリオDの**見通しが悪いこと**などに対する回答が一貫して最多であり、開始前の約6割から議論後には約7割近くまで上昇した。シナリオAの**雪対策予算の大幅増加**なども議論を通じてやや増加し、約2割となった。
- 一方、シナリオBの**費用負担の格差**などやシナリオCの**パートナーシップ排雪より雪解けが遅いこと**などへの支持は議論を通じて減少した。

3つの論点の議論の結果

論点②冬の生活道路の環境について、何を大切にしたいか

結果

生活道路の雪対策で重視すべき視点(7段階)



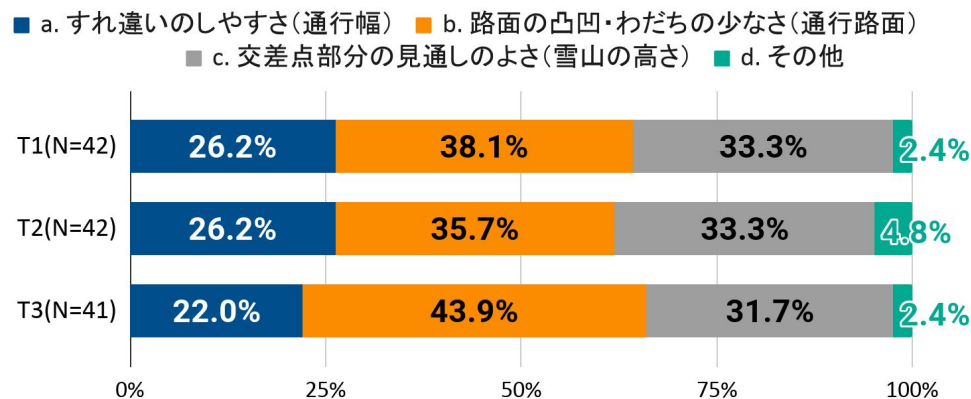
「持続可能性」を重視する視点が最多

- 生活道路の雪対策で重視すべき視点では、**持続可能性**が最も多く、議論を通じてその傾向はさらに強まった。
- 市民負担の少なさを重視する意見は、他の項目と比べると、一貫して最も低い水準にとどまった。

「路面の凸凹・わだちの少なさ」を最優先

- 生活道路の冬期道路環境で優先すべき項目では、**路面の凸凹・わだちの少なさ**が約4割で最も多く、議論後には僅かに増加した。

冬期道路環境で優先すべき項目(択一)



設問

Q4.これからの生活道路の雪対策を考えるうえで、4つの視点をどの程度重視すべきだと思いますか。
(それぞれ7段階で評価)

(参考)「市民負担の少なさ」とは
市民が生活道路の排雪のために支払うお金(町内会等の地域が集めるお金など)や雪かきなどの作業負担が少ないこと

Q5.生活道路の冬期道路環境で優先すべき項目はどれですか。
(1つだけ選択)

3つの論点の議論の結果

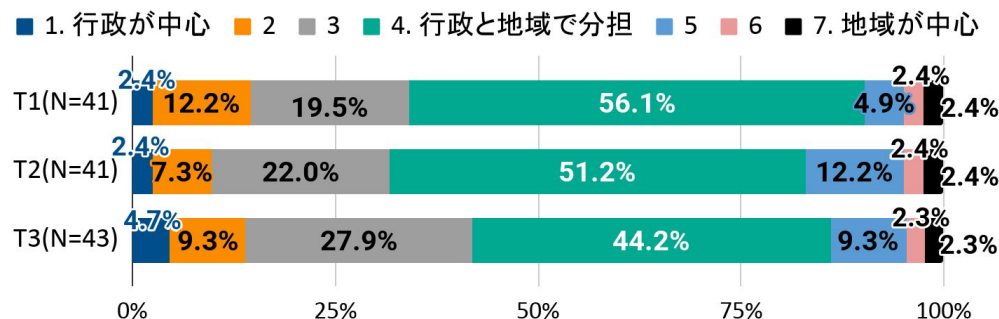
論点③ 行政と地域がどのように役割分担を行いながら進めるのがよいか

設問

Q6.生活道路の雪対策において、行政（札幌市）と地域（町内会等の住民組織や個人）の役割分担はどうあるべきだと考えますか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。（1つだけ選択）

結果

雪対策の役割分担（択一）

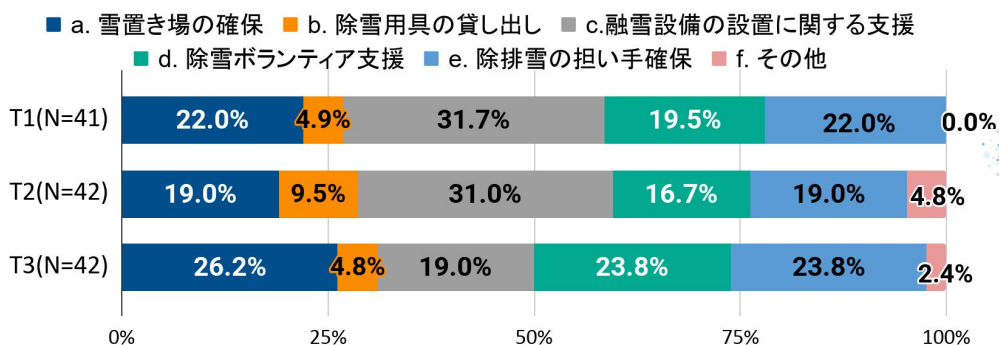


「行政と地域で分担」を約半数が支持

- 雪対策の役割分担では、議論前は**行政と地域で分担**が最多であるが、議論後は減少し、**行政が中心**志向(1~3)の回答がやや増加した。

Q7.生活道路の雪対策を進めるために、市が優先して充実させるべき地域への支援メニューはどれですか。（1つだけ選択）

市が優先して進めるべき地域支援メニュー（択一）

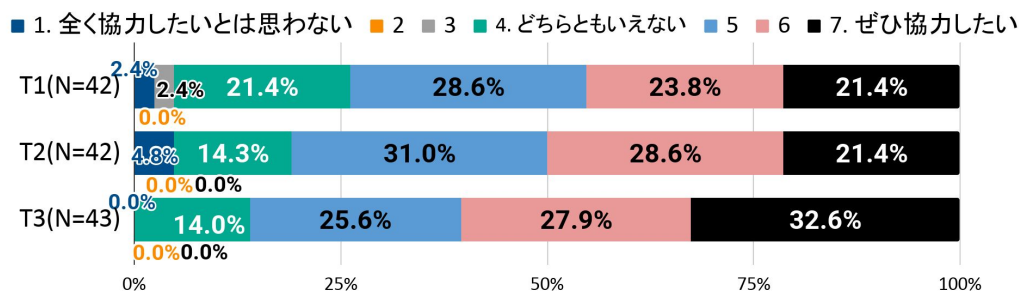


「雪置き場の確保」を支持

- 優先して進めるべき地域支援メニューでは、融雪設備の設置に関する支援は議論前は最多であったが、議論後には減少し、最終的に**雪置き場の確保**が最多となった。また、**除雪ボランティア支援**も議論を経て増加した

Q8.あなたは住んでいる地域の生活道路の雪対策に、ご自身のできる範囲で協力したいと思いますか。（7段階で評価）

地域の生活道路の雪対策への協力（7段階）



議論を通じて、雪対策への協力意向が増加

- 地域の生活道路の雪対策への協力意向では、議論を通じて**どちらともいえない**が減少し、**ぜひ協力したい**など協力に前向きな回答が増加した。

運営に関する評価

情報提供後とワークショップ後に運営方法に関する評価を測定

分類	項目	7段階評価(%)							平均
		1	2	3	4	5	6	7	
情報提供	事前に送付された情報共有ノートにより、WSの目的や内容を理解することができた(N=40)	3	0	3	15	25	28	28	5.5
	事前に送付された情報共有ノートの内容はわかりやすかった (N=40)	3	0	0	13	20	35	30	5.7
	当日の情報提供では、異なる視点が公平にバランスよく取り上げられていた(N=40)	3	0	5	18	28	20	28	5.4
	当日の札幌市からの情報提供はわかりやすかった(N=40)	3	3	5	10	25	20	35	5.5
	当日の情報提供により、雪対策の課題についての理解が深まった(N=40)	3	0	8	3	20	25	43	5.8
意識変化	除雪・排雪の担い手不足の実情を知り、市民の協力や意識を変える必要性を感じた (N=43)	0	0	0	5	23	30	42	6.1
	多額の費用や財源の制約を知り、費用を抑える工夫やサービスの優先順位付けが必要だと感じた(N=43)	0	0	2	12	14	35	37	5.9
	最新技術の導入には時間がかかるという現実を知り、技術だけに頼らない工夫が必要だと感じた(N=43)	5	5	7	12	23	21	28	5.2
	雪対策に関するご自身の考えに変化があった(N=42)	0	2	7	21	23	16	30	5.3
運営全般	全体の進行や説明はわかりやすかった(N=43)	0	2	0	5	24	26	43	6.0
	ファシリテーターは、参加者の意見を尊重し、中立的な立場で進行していた(N=43)	0	0	0	7	16	26	51	6.2
	自身の意見を十分に発言することができた(N=43)	0	0	2	9	16	35	37	6.0
	今回のワークショップの手法は市民意見を市政に反映するための効果的な方法だと思う(N=43)	2	0	0	14	19	26	40	5.8
	【同世代】グループは安心して発言や意見交換ができる居心地の良い雰囲気であった(N=43)	0	0	0	5	14	33	49	6.2
	【同世代】グループの他の参加者の意見を聞いて、新たな気づきや発見が多かった(N=43)	0	0	0	9	5	30	56	6.3
	【同世代】互いの意見を尊重しながら、建設的に話し合うことができた(N=43)	0	0	0	5	9	30	56	6.3
	【多世代】グループは安心して発言や意見交換ができる居心地の良い雰囲気であった(N=43)	0	2	0	0	19	23	56	6.3
	【多世代】グループの他の参加者の意見を聞いて、新たな気づきや発見が多かった(N=43)	0	2	0	2	12	23	61	6.3
	【多世代】互いの意見を尊重しながら、建設的に話し合うことができた(N=43)	0	2	0	5	14	23	56	6.2
	ワークショップ全体に対する満足度(N=42)	0	2	2	0	17	43	36	6.0
	今回のようなワークショップに参加する機会があれば、また参加したい (N=42)	0	0	0	12	7	26	56	6.3

アイデアからイメージされる冬の生活道路のあり方

ワークショップで出された主なアイデア(※)

- 自宅前の歩道や道路は各家庭でできる範囲できれいにする
 - 自宅前だけでなく職場前など身近な場所の除雪に取り組む
 - 路上駐車をしない、雪を道路に出さないなど、一人ひとりがルールを守る
 - 雪に対して暗いイメージを持たず、次の世代へ引き継いでいく
-
- 近所の人同士で顔の見える関係をつくり、高齢者など除雪が難しい人を支える
 - 地域で除雪機・除雪道具を共同利用する、雪捨て場として庭などを提供する
 - 除雪支援が必要な人と支援できる人をアプリ等でマッチングする
 - 有償ボランティア制度で除雪の担い手を増やす
-
- ふるさと納税、宿泊税、クラウドファンディングなどで財源を確保する
 - ワンコイン程度の市民負担で雪対策財源をつくる
 - AIを活用した除雪機や新しい技術を導入する
 - 融雪溝・流雪溝などの融雪インフラを整備・拡充する

一人ひとりの協力

除雪マナーと雪と暮らす意識づくり

住民同士の助け合い

支え合いの仕組み化

多様な財源の確保

新しい技術の導入・インフラの整備

1.個人の意識・協力



・一人ひとりがルールを守り、身近な場所をできる範囲で除雪する

2.支え合う仕組み



・住民同士の助け合いを仕組み化し、地域全体で除雪を支え合う

3.多様な財源と技術の活用



・AI技術の導入やインフラの拡充、多様な財源を確保する

まとめ：論点に対する参加者の意見と冬の生活道路のこれからの姿

論点

参加者の意識と主な意見

①生活道路の雪対策について、どの方向性で進めるのがよいか

水準を抑制した行政による排雪への支持が増加

- 議論前は、「PS排雪の継続」(シナリオB)や「PS排雪水準を全域に」(シナリオA)を支持する声が多かったものの、議論を通じ、「水準を抑制した行政による排雪」(シナリオC)が最も支持された。
- 最も受け入れにくいデメリットとしては、コスト増への懸念(約2割)よりも、雪山による「見通しの悪さ」など安全面への懸念が約7割近くを占めた。

【主な意見】

- ・費用や労力の負担をある程度受け入れる
- ・不便な面も許容する

②冬の生活道路の環境について何を大切にしたいか

「持続可能性」を基盤に、路面の「わだち解消」を最優先に求める

- 重視すべき視点は「持続可能性」が最多であり、議論を通じてその意識はさらに高まった。一方、「市民負担の少なさ」は一貫して最も低い水準にとどまった。
- 優先すべき項目は、「すれ違いのしやすさ(通行幅)」や「見通しのよさ(雪山の高さ)」よりも、「路面の凸凹・わだちの少なさ(通行路面)」を求める声が約4割で最も多く、議論後も僅かに増加した。

【主な意見】

- ・誰もが安全・安心して冬を過ごせる道路環境にする
- ・住民同士が助け合う仕組みをつくる

③行政と地域がどのように役割分担を行いながら進めるのがよいか

行政が中心を担うべきという傾向がやや増加し、参加者自身の協力意向も前向きに変化

- 役割分担は、議論前は「行政と地域で分担」が最多であるが、議論後は減少し、行政が中心志向の回答がやや増加した。
- 住民自身の協力意向は、議論を通じて、どちらともいえないが減少し、ぜひ協力したいなど協力に前向きな回答が増加し、地域への協力に前向きな意識の変化が見られた。

【主な意見】

- ・札幌市による最低限の排雪を行い、生活道路の基本的な環境を保つ。必要に応じて住民が排雪や除雪に協力する
- ・行政に頼りすぎず、市、個人、地域、民間企業の力を組み合わせる

ワークショップの参加者の意見による冬の生活道路のこれからの姿(イメージ)

C 水準を抑制した行政による排雪



+

3つをバランスよく組み合わせる



1.個人の意識・協力



2.支え合う仕組み



3.多様な財源と技術の活用

(参考)

地域におけるマッチングの取組を試行実施

概要

- これまで実施したワークショップにおいて、「除雪支援が必要な人と支援できる人をアプリ等でマッチングする」というアイデアが多く見られた
- このアイデアを具体化するため、町内会の除雪作業を支援する取組として試行
- 短時間・単発の雇用契約を仲介する民間のマッチングサービス(タイミー※)を活用し、スポットワーカーを募集

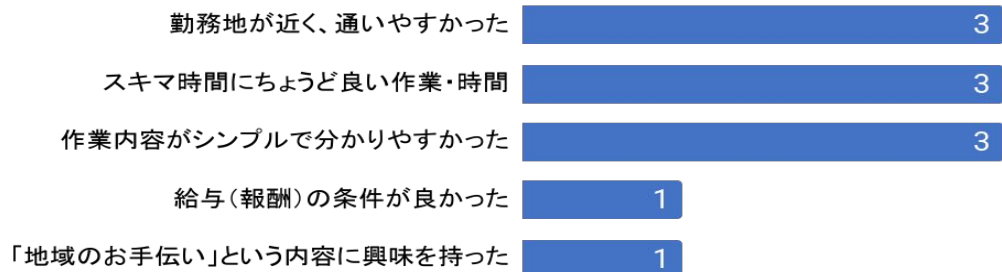
※札幌市と株式会社タイミーは事業連携協定を締結している

取組内容

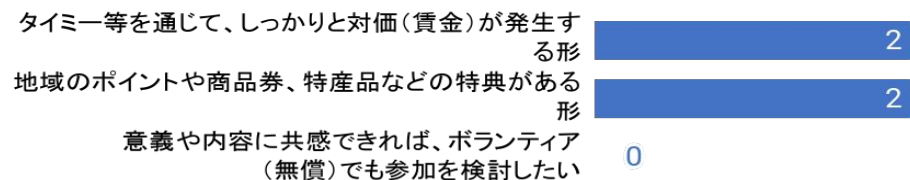
- 実施日: 3月15日(日)
- 募集人数: 4人
- 時間: 2時間
- 作業内容: 町内会が管理するゴミステーション、倉庫周辺などの除雪、ごみ拾い

スポットワーカーへのアンケート結果

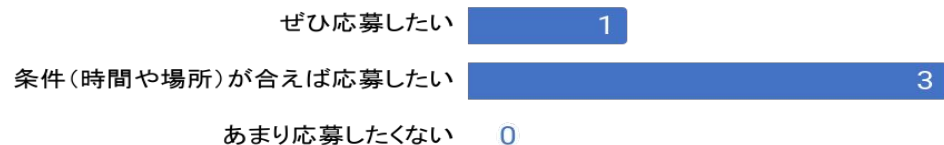
Q 応募した一番のきっかけ(複数回答可)



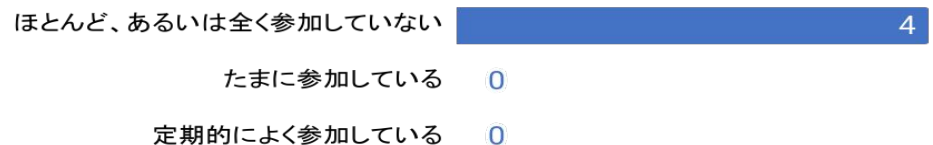
Q 今後の参加形式はどのような形が理想か



Q 今後地域の困りごとを解決する募集があれば、応募したいか



Q 普段、地域の活動(清掃、祭りの手伝い等)に参加しているか



- 募集開始から短時間で4人の申し込みがあった。マッチングサービスを活用することで、地域の支援業務においても迅速な人員を確保することができた。
- スポットワーカーの応募のきっかけとして「勤務地の近さ」や「ちょうど良い作業・時間」が重視されており、本事例においては、地域内での除雪支援を求める町内会と、身近な場所で短時間で働きたいスポットワーカーのニーズの一致が見られた。
- 本取組においては、普段は地域活動に参加経験の少ない方が参加されたことから、地域活動の担い手の発掘につながる可能性が示唆された。



倉庫周辺の除雪



ゴミステーションの除雪